

14年度

予算を可決

賛成討論

長引く不況の中、競艇事業収入の落ち込みや市税、地方交付金の減少など、前年度予算を下回る厳しい財政状況ではあるが、群馬大学との共同研究やベンチャー企業の育成、空き店舗の活用、雇用対策、林業振興、特別養護老人ホームの新設や増床、残土条例の制定、学校施設の改修や小学校の英会話学習、北関東自動車道のアクセス道の整備など、市民ニーズに合った施策を打ち出した予算編成であり評価できる。

平成十四年度の重点施策と具体的な推進は

答弁 「元気の出る」予算編成をして、活力あるまちづくり産業の活性化、豊かな自然を守るための環境保全、少子高齢化への対応等の保健福祉の充実、新学習指導要領の実施を迎える教育環境の拡充、中通り線など都市基盤の整備、市有施設の改修事業の実施な

平成14年度一般会計予算および水道事業会計予算は、それぞれ賛成多数で原案のとおり可決しました。10事業の特別会計予算については、交通災害共済事業特別会計予算が全員賛成で原案のとおり可決し、その他の9特別会計予算は賛成多数で原案のとおり可決しました。

なお、平成14年度予算を可決するにあたっては、各会派代表の議員（5人）が総括質疑を行うとともに、予算特別委員会（委員12人で構成）を設置し、2日間にわたり、慎重に審査を行いました。総括質疑における、主な質疑に対する市当局の答弁は、次のとおりです。

地方交付税の今後の見通しは

答弁 地方交付税は、所得税など国税五税の一定割合を地方公共団体へ交付が定められているが、国は借り入れをして交付している。現在の経済状況下、五税の減少や借り入れの抑制により、平成十四年度地方交付

ど、第四次総合計画の具現化を進めていく。

反対討論

新年度予算の中で、財源確保の努力や、おりひめバスなど高齢者や子供への政策等の前進面は評価できるが、多くの課題があるので反対する。合併問題のデメリットも示して住民合意のもと進め、北関東自動車道へのアクセス道の利用と、国道50号線の利用の時間的・経費的相違の調査研究が必要。教育では30人学級の早期実現や学童保育所への市からの補助の必要。介護保険保険料の軽減措置の一層前進させるべきである。

桐生市の新規雇用対策は

答弁 四十歳から六十歳までの市民や、障害者を常用雇用した市内事業所に対し、雇用者一人につき月額二万円助成する「桐生市緊急雇用奨励補助金」、事業所に雇用拡大をお願いする「緊急雇用発掘事業」などにより、雇用拡大に努めている。

住民基本台帳ネットワークの開発は

答弁 平成十四年八月五日からの第一次サービス開始に向け、同システムの構築を進め、現在使用中のシ

桐生の良さを知って、もう教育の取り組みは

答弁 桐生を好きな子を育てることを基本方針として、桐生に愛着と誇りを持つ子供の育成に重点を置いている。各小・中学校では地域に出掛け、歴史や文化遺産、自然に触れたり、地域の人に話しを伺ったりする。また、教育委員会では「ふるさと桐生の歩み」等資料を作成して、育成に努めている。

主な議案

残土条例に関する議案

桐生市土砂等の埋立て等による土壌の汚染及び災害の発生防止に関する条例案
原案可決（全員賛成）

概要

土砂などの埋立て等を行う場合、必要な規制を行い汚染や災害の発生を未然に防止し、自然や環境を守るために制定するものです。残土の処理には事前に届出を義務付け、制限を設けました。県内初の条例です。

条例施行日
平成十四年四月一日

特別職給料に関する議案

市長、助役、収入役及び教育長の給料の特例に関する条例案
原案可決（全員賛成）

概要

市財政の再建に向けた決意をあらわすため、一年間の時限措置として、特別職の給料を百分の五削減しようとするものです。

条例施行日
平成十四年四月一日